

# 広げよう！優良実践の輪！

～平成30年度 優良実践校の取組～

取組 1



学級会の様子

## 2 学級会の充実

1 はじめに  
本校は県南部に位置し児童数約910名の大規模校です。意思疎通が苦手で自主性に乏しいといった傾向を改善するための、特別活動の研究を柱とした取組の概要を紹介します。

3 ハッピーポストを活用した人間関係の構築  
学校生活の中で見つけた思いやりのある行動やがんばっていること、うれしかったことへのお礼の気持ちなどを書いてハッピーポストに入れると、児童会の担当児童が相手に届けます。

学級活動の話し合い活動を中心に特別活動の研究に取り組みました。児童全員で学級目標を決め、学級生活のあらゆる場面で、その実現を目指しました。学級生活を楽しく豊かにするために、議題収集から計画委員会での準備、実践という学級活動の一連の流れを大切にしたい取組も積み上げてきました。少数意見も大切にしながら、折り合いをつけて集団決定をしていく経験を重ねたことで、よりよい合意形成をする力がついてきました。



幼稚園児との交流会

4 保幼小中の連携と地域連携  
庄地区は小学校と中学校、さらには幼稚園・保育園も隣接しているため連携しやすい好条件にあります。運動会での中学校吹奏楽部のドリル演奏や園との交流会などに加え、学区内の清心学園との連携行事も行いました。児童の安全確保、学習支援、環境整備のための地域の協力を

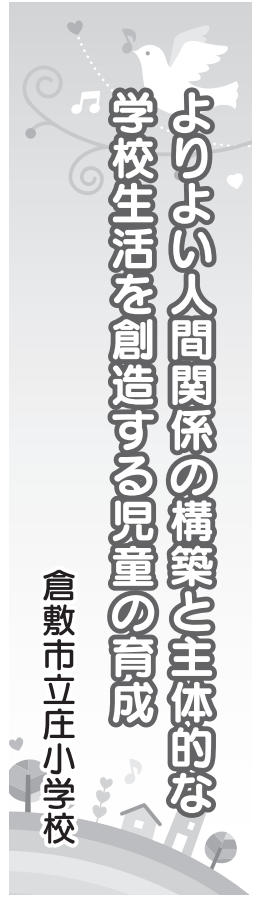
児童から児童、教師から児童、児童から教師へと全校で温かいやり取りが重ねられています。小さなことでもお礼や励ましの気持ちを伝え認め合うことは、自己有用感や自己肯定感を高めることにつながっています。

6 おわりに  
取組の結果、児童相互、児童と教職員との信頼関係のもと、落ち着いて学習に取り組むことができました。今後も、主体的に自信をもって学習に取り組む児童を育てたいと思います。

(校長 小野弘志)

5 その他の取組  
岡山型学習指導のスタンダードの徹底による学習基盤の確立に取り組んできました。あいさつ運動を継続し、生活に根ざしたあいさつ励行を続けてきました。

制も整っています。  
小中9年間お世話になる庄調理場との連携も大切にしています。「庄のみそラーメン」を始めとする自校の給食を自慢に思い、感謝して食べる気持ちを育てています。  
学区内の遺跡が日本遺産に認定されたことを生かし、地域の歴史や文化遺産により関心を深めていくように工夫をしています。



学校統合を契機とした  
落ち着いた学校づくり

鏡野町立鏡野中学校

1 はじめに

本校は、平成28年度にそれまで町内にあった4中学校を、鏡野中学校1校に統合し、開校しました。生徒数や学習環境の異なる統合は、生徒指導面や学力面での不安の声が多く、課題も多くありました。そのため、統合2年前に統合準備委員会を立ち上げ、新しい学校づくりに取り組みました。現在、「日々新たに」の校訓のもと、日々伝統づくりに取り組んでいます。

の入室と授業準備の徹底を図り、チャイムとともに授業を開始しています。教員は、授業開始から5分間は全員で指導し、校内環境の整備にも全員で取り組んでいます。



開始5分間の全員指導

2 具体的な取組

(1) 魅力ある授業づくり

統合時の確認事項で、通常学級は30人以下の編制とし、岡山型学習指導のスタンダードに特別支援教育の視点を加え、鏡野中授業スタンダードを作成しました。併せて学習規律の徹底に取り組み、生徒には授業開始前

(2) 心に寄り添う生徒指導の  
充実

先を見通した上で、心で生徒を動かす指導を心掛け、厳しく、温かくかつ迅速で誠実な対応を

基本方針としています。また、共通理解と統一した指導のために早めの報告、連絡と相談にあたっていきます。

(3) 自主的・主体的な学校行事の展開

まだまだ伝統づくりの最中ですが、特に体育祭では、3年生を中心とした縦割り集団で学校行事の展開を図っています。また、生徒会執行部が専門委員会の発表の場を設け、ユニークな集会を開催しています。

(4) 豊かな人間性を育む道徳教育の推進

道徳授業充実拠点校事業の取組から、授業づくりを教科の枠を越えて取り組み、ローテーション授業の実践など「主体的で対話的で深い学び」を求めています。

(5) チーム鏡野の強化

一人で抱え込まず、風通しのよい集団であるよう、また、生徒は学びたい、教職員は勤めたいと感じる学校であるよう、教職員集団の団結はもとより、外部機関と綿密に連携し、組織として、学習や活動に取り組んでいます。

3 終わりに

毎年の実践が伝統となり、「新しい学校を皆でつくる」という考えを忘れず、開校3年目を終えます。特に何も取り組んだものはないように感じますが、生徒、教職員、地域、行政が同じ方向に進んでいることが本校の強みかもしれません。

「当たり前のことが当たり前にできる」その意識を常に胸に秘め、進化を追求する学校となるよう「日々新たに」取り組んでいきたいと思えます。

(校長 三村公一)



ICT機器の活用